

会 議 録

会 議 名	第1回 佐野市義務教育学校検証委員会
日 時	令和8年7月28日（火） 午前9時56分～午前10時55分
場 所	田沼行政センター3階 大会議室
出 席 者	【参加者】（計12名） 別紙「佐野市義務教育学校検証委員会 委員名簿」のとおり （代理 3名） （欠席者 1名） 【事務局】（計12名） 教育長、教育部長、学校教育課長、学校教育課指導係長、学校適正配置課長、係長、係員（4名）、学校適正配置推進員（2名） 【傍聴者】（計20名）
配布資料	・ 次第、委員名簿 ・ 資料1 佐野市義務教育学校検証委員会設置要綱 ・ 資料2 佐野市の義務教育学校の整備について ・ 資料3 あそ野学園義務教育学校の現状 ・ 資料4 葛生義務教育学校の現状 ・ 資料5 義務教育学校検証委員会 検証内容・検証項目・スケジュール（案） ・ 資料6 義務教育学校検証委員会 学校視察・参考人ヒアリング（案）
委員会内容	会議の内容については以下のとおり。 1 開 会 司会（学校適正配置課長） 2 教育長あいさつ 3 自己紹介 4 佐野市義務教育学校検証委員会について ・ 事務局から本委員会の目的、所掌事務に掲げる事項について、資料1を基に説明した。

委員会内容	・資料１の説明後、事務局から検証委員会設置要綱第６条第２項に基づき、出席委員数は１３名中１２名であるため、会議が成立している旨を報告した。 ・委員からの質疑なし。 ５ 委員長及び副委員長の選任について ・要綱第５条第１項に基づき、委員長及び副委員長を選任した。 ６ 議 題 （１）佐野市の義務教育学校整備及び検証対象校の現状について ①佐野市の義務教育学校の整備について ・事務局から本市の学校教育及び教育環境の現状、義務教育学校整備の目的、義務教育学校整備に係る計画の策定、検証する義務教育学校２校の概要について、資料２を基に説明した。 ②あそ野学園義務教育学校の現状について ・事務局から学校運営について、資料３を基に説明した。 ③葛生義務教育学校の現状について ・事務局から学校運営について、資料４を基に説明した。 （委員長） 事務局の説明を受けて、委員の意見等を伺いたい。 《委員からの意見》 ・委員からの意見は以下のとおり。 （委 員） 葛生義務教育学校の基本的な事項は事務局の説明のとおり進めている。具体的な内容は精査し、新たな取組を実施、検証しながら次に活かすようにしている。本校は１年生から９年生が単学級しかなく人数も年々減少傾向にある。ただ、人数が少ない分全体が把握しやすい部分はある。 （委 員） あそ野学園義務教育学校は令和２年度に開校し今年７年目である。開校年度はコロナ禍の影響で計画変更等を余儀なくされたが、現在は元の計画に沿って学校を経営している。ただ、さらにあそ野科は、次の学習指導要領で総合的な学習時間が大きく変わることもあり見直しを図る予定である。 （委員長） 義務教育学校は制度が新しいことから学校内部でも検証しながら進めている印象である。他の委員からも意見を伺いたい。
-------	---

(委員) 義務教育学校にこどもが通っている。合併前は元々全校生徒が少ない小規模校であった。統合後も、自分のこどもの学年は15名であり、もっと人数が増えると期待していた。ただ、同じ学年の友達がいることは心強いと思っている。その他伝えたいことは多々あるが、意見はこの程度にとどめる。

(委員長) 今後も会議は開催するため、伝えたいことがあれば全て発言してほしい。

(委員) あそ野学園義務教育学校でも、ふるさとウォークを実施している。昨年は閑馬地区、今年は下彦間地区で実施する。7つの地区を持ち回りで実施しており、昨年の閑馬地区での実施は好評であった。地域の歴史や文化に触れ、交流を深めることに好評を得ていると感じている。

山手に住んでいるこどもは、バス通学で通っているが、すんなり受け入れている印象である。

学習面において、前期課程で教わった先生が後期課程の授業でも教わる機会があることはメリットであると考えている。

部活動においても事前に体験活動ができるのもよい点であると考えている。

(委員) 学校運営協議会委員として、校長先生から学校経営方針やこどもたちの将来像などを伺いながら協議事項を委員会で承認するなど、学校運営に携わっている。

ふるさとウォークでは、地域の方が歩くところを草刈りし、地域に関わるクイズを出してこどもたちの興味や関心を引き出す取り組みがあった。

乗入授業には不安があったが、授業参観でこどもたちが授業を受けている姿を何度も見て、すんなり受け入れていると話を伺っている。

統合する前の学校の閉校にも携わったが、小規模校であったため、いきなり人数が増え、学校に行くことに不安を感じるという意見があった。良いことだけではなく課題もあるが、改善に向けて検討していくことは重要であると感じている。

(2) 検証内容、検証項目及びスケジュール(案)について

・事務局から資料5を用いて義務教育学校2校の検証内容、検証項目及びスケジュールを説明した。

(委員長) 現地の視察や関係者とのヒアリングを実施した上で検証するが、提案のとおり進めてよろしいか。

- ・委員から承認を得る。

≪協議の結果≫

- ・資料5のとおり検証を進めることが決定した。

(委員長) 検証の面で1点意見だが、両校の学校教育目標を見てもはつきりしているように、数値化、見える化できないものが山ほどある。教育は、心の豊かさなどを育てている。安易に数値化しようとせず、おもねらない検証をお願いしたい。教育に係る検証は、定量的だけでなく定性的な検証をしていただきたい。

(3) 学校視察及び参考人ヒアリング(案)について

- ・事務局から実施時期、実施場所、参考人について資料6を基に説明した。
- ・委員からの質疑等なし。

(委員長) 質疑等はないため、資料6のとおり進めていくことをご了承願いたい。

≪協議の結果≫

- ・資料6のとおり視察及び参考人ヒアリングを進めることが決定した。

(4) その他

(事務局) 第2回検証委員会での学校視察と参考人ヒアリングの実施が決定したが、第2回検証委員会の会議の公開・非公開を委員会として決定していただきたい。

≪委員からの質疑等≫

(委員) 今回の検証で保護者からの意見は含まれるのか。これから意見を集めるのか。

(委員長) 保護者の観点でどうなのか、よい点と悪い点を今後の委員会で検証し、学校整備に向けての改善や教育の質の向上につなげていきたい。

(委員) 検証項目について、どのような方法で実施していくか事務局の考えはあるか。例えば教職員にアンケートを取る場合は、事前に伝える必要がある。

(委員長) 方法などについてもこの会議で協議してまいりたいと考えている。

	(委員長) 会議の公開、非公開について意見がなければ、公開で進めたいと考えている。傍聴者がたくさん集まっている中で検討していく姿勢を見せていかなければ検証にならないと考えている。 ≪協議の結果≫ ・委員長から委員へ公開で進めてよいか確認し、第2回検証委員会は公開とすることを決定した。 ≪次回の開催≫ ・事務局から、次回の会議は10月頃開催予定であり、別途通知することを連絡した。 7 閉 会
--	--